

授業科目	基礎看護実習 2	2 学年・後期・2 単位 (90 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	堀口雅美 (保健医療学研究棟 E309 号) e-mail : hori@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	宇野智子、中村円、飯澤良祐		
概要	本科目では担当患者との相互作用を通して、療養環境にある対象者の生活行動のあり方や健康に対する認識を深めるとともに、既習の学習内容をもとに担当患者を中心に、学生指導看護師とともに日常生活看護実践に参画する。安全を守り安楽を導き、自立と自律を支えるための個別的な看護援助の体験を通して具体的に、かつ、さまざまな看護実践のあり方を学び、看護および看護職者に対する洞察を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当患者を中心に、看護の対象者と援助関係を築くことができる。</li> <li>2. 担当患者に必要な看護について、学生指導看護師の思考過程を学びながら明らかにし、実施できる。</li> <li>3. 担当患者を中心とする保健医療チームの役割を説明できる。</li> <li>4. 担当患者以外の看護の対象者に対し、学生指導看護師とともに看護活動に参画できる。</li> <li>5. 対象者と倫理的にかかわり、自己の行動を振り返ることができる。</li> <li>6. 看護チームの一員としての意識をもって主体的に、かつ責任ある行動をとることができる。</li> </ol>		
評価	実習評価表(ルーブリック)に基づいて、実習状況 (51%) と提出物・発表会の内容に関する目標到達度 (49%) (計 100%) を評価する。実習評価表は開講時に提示する。		
履修上の留意点	実習中は実習専念義務を負うため、原則として遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず事前に連絡する。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1～2名の入院患者を担当し、学生指導看護師とともに日常生活に関する看護実践に参画する。</li> <li>2. 3～4名のグループに分かれ、成人系病棟で2週間実習する。</li> <li>3. 週に1度の予定で学生の報告会を行う。</li> <li>4. 学習状況は毎日、所定の用紙に記録する。</li> <li>5. 基礎看護実習2の実習ファイルを毎日持参する。</li> <li>6. 実習終了後、テーマに沿って実習で学んだことを発表する。</li> <li>7. 実習終了後、まとめを提出する。</li> </ol>
実習期間	2023年1月～2月(予定)
実習場所	札幌医科大学附属病院 14病棟(予定)
実習時間	基本的に9:00～15:00であるが、開始と終了時刻は実習病棟や学習状況によって異なる場合がある。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当患者を中心に、コミュニケーションを通して援助関係を築く。</li> <li>2. 学生指導看護師の思考過程を学びながら、担当患者に必要な看護を明らかにし、実施する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 担当患者に必要な看護の内容について、学生指導看護師の考え方を学びながら自らの考えを明らかにする。</li> <li>2) 担当患者に必要な看護援助を計画し、学生指導看護師および担当患者と調整する。</li> <li>3) 既習の看護技術を用いて、担当患者に対する日常生活援助を学生指導看護師とともに実施する。</li> <li>4) 担当患者への看護実践を振り返る。</li> </ol> </li> <li>3. 担当患者を中心とする保健医療チームの役割を理解し、チームの一員として行動する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 栄養部門の講義を聞き、看護部門との関連を知る。</li> <li>2) 担当患者を中心とした保健医療チームの役割を知り、メンバーとして行動する。</li> </ol> </li> <li>4. 担当患者以外の看護の対象者に対し、学生指導看護師とともに看護活動に参画する。</li> <li>5. 対象者と倫理的にかかわり、自己の行動を振り返る。</li> <li>6. 看護チームの一員としての意識をもって主体的に、かつ責任ある行動をとる。</li> </ol>